

真庭市地域クラブ活動に関する方針

令和8（2026）年3月改定

真 庭 市

真庭市教育委員会

1. 地域クラブ活動の基本的な考え方	2
(1) 地域クラブ活動の位置づけ	
(2) 地域クラブ活動の目指す姿について	
(3) 認定地域クラブ活動について	
2. 認定地域クラブ活動の適切な運営や効率的・効果的な活動の推進	4
(1) 認定地域クラブ活動の運営・活動計画	
(2) 適切な指導の実施体制等	
① 指導者の資質の向上	
② 適切な指導の実施	
③ 適正なスタッフ等の配置	
④ 指導者等の人材確保	
⑤ 教師等、学校関係者の兼職兼業	
(3) 活動内容	
(4) 適切な活動時間及び休養日等	
(5) 活動場所	
(6) 会費の設定	
(7) 適切な安全確保の体制	
(8) 保険加入	
3. 学校との連携等	10
(1) 学校との連携	
(2) 他認定地域クラブ等との連携	
4. 事故の防止及び健康管理	11
5. 個人情報の取扱い	12
6. 大会等への参加	12
(1) 中学校体育連盟主催大会への参加や吹奏楽連盟主催コンクールへの参加	
(2) 上記以外への大会等への参加	
7. 真庭市・真庭市教育委員会のかかわり	12
8. その他	14

1. 地域クラブ活動の基本的な考え方

(1) 地域クラブ活動の位置づけ

地域クラブ活動は、国が令和4年12月に示した「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン（令和4年12月）」の中で「地域の子供たちは、学校を含めた地域で育てる」という基本理念のもと、学校部活動の教育的意義を継承・発展させながら、地域全体で子どもを支える仕組みとして位置づけられている。また、国が令和7年12月に示した「部活動改革及び地域クラブ活動の推進等に関する総合的なガイドライン」では、持続可能なスポーツ・文化芸術活動の環境整備を図るため、中学校の部活動を地域へ移行する取組を全国的に推進することが明確に示された。

地域クラブ活動は、学校単位で行われてきた部活動と同様に教育的意義を有する活動であり、中学生が継続的にスポーツや文化芸術活動に親しみ、生涯にわたって豊かな活動を続けるための資質・能力を育てる場として期待されており、活動の内容によっては、小学生・高校生・社会人・高齢者など、多世代が参加し得る地域の学びの場としての役割も担っていくこととなる。さらに、競技力向上のみを目的とした活動との差別化を図る観点から、地域クラブ活動は、「中学生が広く参加できる開かれた活動であること」、「競技性・成果偏重に陥らないこと」、「発達段階に応じた活動時間・休養日の設定」、「適切な安全確保・指導体制の構築」などを重視しており、本市においても、これらの趣旨に沿って持続可能で安心・安全な地域クラブ活動の構築を進めるものとする。

<学校部活動が担ってきた教育的意義の例>

- ①スポーツ・文化芸術・科学等の楽しさや喜びを味わい、生涯にわたって豊かな活動を継続する資質や能力を育てる。
- ②体力の向上や健康の増進、感性・創造性・表現力の育成につながる。
- ③自主性、協調性、責任感、連帯感などを育成する。
- ④自己の力の確認、努力による達成感、充実感をもたらす。
- ⑤互いに競い、励まし、協力する中で友情を深めるとともに、学級や学年を離れて仲間や指導者と密接に触れ合うことにより学級内とは異なる人間関係の形成につながる。

(2) 本市における地域クラブ活動の目指す姿について

本市の地域クラブ活動は、「スポーツ・文化芸術を通して真庭の子どもを育てる」という理念のもと、学校部活動の教育的意義を継承しつつ、地域ならではの多様な学びや世代間交流を生み出す場として発展させていく。子どもが自ら興味のある活動を選び、多様な関わりの中で成長できる環境を整えるとともに、学校と連携して、子どもたちの健全な成長を地域全体で支える仕組みを構築し、次のことを目指した活動を行っていく。

- ・子どもたちが主体的にスポーツ・文化芸術活動を選択し、一人ひとりに応じた多様な参加ができる。
- ・学校生活だけでなく、生涯スポーツ・生涯学習の一環として、子どもたちの将来につながる持続可能な体験ができる。

(3) 認定地域クラブ活動について

本方針では、競技力向上を主目的としたチーム・スクール等との区別を行うため、地域クラブ活動を行う団体が、次の要件を満たし、真庭市が認定したものを「認定地域クラブ活動」とする。

【認定要件】

- ①原則として、真庭市内の中学校に在籍する中学生を中心に編成されている活動、または多世代での交流を目的に設置されている団体が中学生とともに行う活動であること。
- ②学校部活動の教育的意義を継承・発展し、競技性や成果のみに偏重するのではなく、中学生が継続的にスポーツ・文化芸術活動に親しむ機会を確保し、生涯にわたってスポーツや文化芸術を楽しみ、豊かに関わるために必要な資質・能力等を育てることを目指した活動であること。
- ③選抜等を行わず、参加を希望する中学生を広く受け入れる活動であり、競技力強化等の観点での広域から中学生を集めるものではないこと。

④真庭市地域クラブ活動に関する方針に沿った活動を実施すること。

- ・適切な運営や効率的・効果的な活動の推進が行えていること
- ・適切な指導の実施体制が確保されていること
- ・適切な活動時間や休養日等が設定されていること
- ・活動の維持・運営に必要な範囲で、可能な限り低廉な参加費等が設定されていること
- ・適切な安全確保の体制が確保されていること
- ・学校等との連携が適切に行われていること

⑤本認定要件が変更された際は、変更内容を承認すること。

2 認定地域クラブ活動の適切な運営や効率的・効果的な活動の推進

(1) 認定地域クラブ活動の運営・活動計画

- ① 認定地域クラブ活動は、規約（目的、役員、団体の意思決定、会員の入退会、会員及び会費、予算・決算等）、年間活動計画、年間収支予算、役員名簿等を整備しているとともに、関係法令を遵守するとともに、規約等に基づき適切な運営が行うこと。
- ② 認定地域クラブ活動は、公正かつ適切な会計処理が行われ、透明性を確保するために関係者に対する情報開示が適切に行うこと。
- ③ 認定地域クラブ活動は、営利を主たる目的とせずに運営すること。
- ④ 認定地域クラブ活動が、大会・コンクールに参加する場合には、その運営に積極的に協力すること
- ⑤ 認定地域クラブ活動の責任者は18才以上とすること（ただし、高校生は除く）。
- ⑥ 認定地域クラブ活動が、学校施設を使用する場合は、使用する中学校の学校行事を考慮して活動を計画しなければならない。また、年間の活動（活動日、休養日、参加予定大会の日程等）及び毎月の活動（活動日時・場所、休

養日、大会参加日等)を計画し、可能な範囲で公表すること。

- ⑦ 認定地域クラブ活動は、年間および毎月の活動計画を実施月の1ヶ月以上前に参加者へ伝えること。
- ⑧ 認定地域クラブ活動は、急遽やむを得ない場合を除き、認定期間内に活動を終了しないこと。
- ⑨ スポーツ活動を行う認定地域クラブ活動は、「スポーツ団体ガバナンスコード<一般スポーツ団体向け>」に準拠した運営に努めること。
- ⑩ 認定地域クラブ活動の運営団体及び認定地域クラブ活動は、幅広い生徒等の問題意識やニーズ把握、満足度、課題感に関して定期的にアンケート調査等を行い、活動の質の向上や課題の早期発見・解決に努めること。
- ⑪ 参加者及び保護者、学校、指導者が情報の共有を図るため、認定地域クラブ活動で共通したアプリで、活動に関する一元的な情報提供を行うこと。

(2) 適切な指導の実施体制等

① 指導者の資質の向上

ア 認定地域クラブ活動は、それぞれのスポーツ・文化芸術活動の特性を踏まえた科学的・合理的な内容、実効性のある指導方法を積極的に取り入れ、効率的かつ効果的な活動を実施し、適切な休養を取りながら、参加者が短時間に集中して取り組めるようにする。

イ 認定地域クラブ活動の運営団体及び認定地域クラブ活動は、指導者や活動をサポートする者(以下「サポーター」という。)を真庭市が設けた「真庭市スポーツ・文化人材バンク」に登録するとともに、岡山県、真庭市及び真庭市教育委員会(以下、「市教育委員会」という。)が実施する研修等を受講すること。ただし、当該年度に有資格者(なろうとする者含む)については、各資格取得(新規・更新)の講習等で同様の研修等を受講する場合は、この限りではない。

ウ 認定地域クラブ活動は、参加者の能力向上や、生涯を通じてスポーツ・文化芸術等に親しむ基礎を培うこと。

エ 参加者がバーンアウトすることなく、それぞれの目標を達成できるよう、コミュニケーションを十分に図り、発達個人差や成長期における体と心の状態等を鑑みた上で指導を行うこと。

オ 文化芸術活動で留意する必要がある著作権についても研修等を行うこと。

② 適切な指導の実施

ア 認定地域クラブ活動は、指導者や指導補助、見守り等を行うサポーターが、暴力・暴言・ハラスメント、いじめ、無視等の行為は、許されない行為であることを理解し、自らこうした行為を行わないとともに、参加生徒同士のこうした行為も許さないことを誓約すること。

イ 認定地域クラブ活動は、参加者の心身の健康管理、事故防止を徹底し、体罰や暴言・ハラスメントを根絶するとともに、中央競技団体等が作成した指導手引きを活用して、指導を行う。

ウ 指導者は、参加者との十分なコミュニケーションを図りつつ、県教育委員会発行の「学校部活動指導資料」も参考にしながら、適切な休養、過度の練習の防止や合理的かつ効率的・効果的な練習の導入等を行うとともに、研修会等へ積極的に参加し、正しい知識を修得すること。

③ 適正なスタッフ等の配置

ア 認定地域クラブ活動は、その参加者の目的に応じて指導者の資格を必ず求めるものではないが、専門的な指導を行う場合にはその資格を有することが望ましい。

イ 認定地域クラブ活動が、各活動における大会やコンクールに参加する場合は、審判資格の保持等、その参加要件を満たすとともに、そのための人員を確保しなければならない。

④ 指導者等の人材確保

認定地域クラブ活動の運営団体及び認定地域クラブ活動は、真庭市が設けた「真庭市スポーツ・文化人材バンク」を活用し、指導者及びサポーター等の確保を行うこと。

⑤ 教職員等、学校関係者の兼職兼業

ア 認定地域クラブ活動の運営団体及び認定地域クラブ活動は、指導者本人の意思を尊重し、指導を望んでいないにもかかわらず参加を強いられることがないよう十分に配慮しなければならない。また、指導者の健康や本来の職務に支障がないことを常に確認しなければならない。

イ 認定地域クラブ活動の運営団体及び認定地域クラブ活動は、教職員等を指導者等として雇用等する際、居住地を考慮するとともに、異動や退職等があっても継続的・安定的に認定地域クラブ活動に従事可能か確認しなければならない。

ウ 教職員等が兼職兼業等によって認定地域クラブ活動に従事する場合には、実費弁償などを除き無報酬（無償ボランティア）であったとしても、在籍校の学校長へ必ず報告しなければならない。

エ 認定地域クラブ活動の運営団体及び認定地域クラブ活動が、公立学校の教職員等の兼職兼業に係る労働時間等の確認等を行うに当たっては、文部科学省・スポーツ庁・文化庁が作成した「公立学校の教師等が地域クラブ活動に従事する場合の兼職兼業について（手引き）」を参照し、教職員等の服務監督を行う市教育委員会等と連携して、勤務時間等の全体管理を行うなど、雇用者等の適切な労務管理に努めること。

⑥情報の共有

市が指定したアプリを活用して、認定地域クラブ活動（指導者）及び学校（顧問等）が情報の共有を図ること。

（3）活動内容

① 認定地域クラブ活動は、競技・大会志向で特定の種目や分野に継続的に専念する活動だけではなく、休日や長期休暇中などに開催される体験教室や体験型キャンプのような活動、レクリエーション的な活動、シーズン制のような複数の種目や分野を経験できる活動、障害の有無にかかわらず誰もが一緒に参加できるユニバーサルスポーツや、アーバンスポーツ、メディア芸術、アート活動など、複数の活動を同時に体験することを含め、参加者の志向や

体力等の状況に適したスポーツ・文化芸術に親しむ機会を、指導体制に応じ
て段階的に確保すること。

- ② 認定地域クラブ活動は、地域の現状に応じ、中学生の自主的・自発的な活
動を尊重しつつ、他の世代向けに設置されている活動にも一緒に参加できる
ようにすること。
- ③ 認定地域クラブ活動は、地域で実施されているスポーツ・文化芸術活動の
内容等を広報誌での案内や学校の協力を得るなどして中学生等や保護者に
対して周知すること。

(4) 適切な活動時間及び休養日等

- ① 認定地域クラブ活動に取り組む時間については、競技・大会志向の強いも
のも含め、中学生等の志向や体力等の状況に応じて適切な活動時間とする必
要がある。認定地域クラブ活動は、中学生等の心身の成長に配慮して、健康
に生活を送れるよう、市教育委員会が策定した「学校部活動の在り方に関す
る方針」に記載している活動時間を遵守し、休養日を設定すること。
- ② 当面、学校部活動と認定地域クラブ活動が併存することから、中学生等の
成長や生活全般を見通し、運営団体・実施主体と学校を中心とした関係者が
必要に応じて連携し、調整を図ること。
- ③ 1日の活動時間は、学校の休業日（学期中の週末を含む）は3時間程度と
し、平日においては長くとも2時間程度、できるだけ短時間に、合理的でか
つ効率的・効果的な活動を行うこと。
- ④ 夏休みなど長期休業中は学校の休業日の扱いに準じるものとする。
- ⑤ 学校始業前の活動（早朝練習）については、中学生等の健康面・安全面及
び家庭への負担がかかるため実施しないこと。
- ⑥ 練習試合については、常態化することがないよう留意するとともに、参加
者の過度の負担とならないよう精査すること。

(5) 活動場所

- ① 認定地域クラブ活動は、地域の学校をはじめとする学校施設、公共のスポーツ・文化施設、社会教育施設を拠点として活動すること。
- ② 認定地域クラブ活動は、学校施設を使用する場合、事前に真庭市及び利用予定の学校へ利用申請をしなければならない。また、次年度も継続して学校施設を使用し活動を実施する場合は、年度毎に申請すること。なお、事前に他の認定地域クラブ活動と調整を行うこと。
- ③ 学校施設を利用する場合は、責任を持って、施設の解錠施錠などを行うこと。また活動後には施設の現状復帰を原則とする。
- ④ 認定地域クラブ活動は、決められた時間内で活動を行うとともに、許可された場所以外への立ち入りは行わないものとする。
- ⑤ 認定地域クラブ活動は、活動している学校が、気象警報や感染症等により臨時休校（休業）した場合は、当該学校での活動を行わないこと。

（6）会費の設定

- ① 認定地域クラブ活動の運営団体及び認定地域クラブ活動は、中学生や保護者、地域住民等の理解を得つつ、活動の維持・運営に必要な範囲で、可能な限り低廉な会費を設定すること。
- ② 認定地域クラブ活動の運営団体及び認定地域クラブ活動は、公正かつ適切な会計処理を行い、組織運営に透明性を確保するため、関係者に対する情報開示を適切に行うこと。

（7）適切な安全確保の体制

- ① 認定地域クラブ活動の運営団体及び認定地域クラブ活動は、生徒の発達段階や健康の状態、気温や湿度、暑さ指数（WBGT）等の環境を考慮のうえ、適切な指導内容や活動時間、休息时间、水分補給の機会等を設定するとともに、活動場所の管理主体と連携した施設・設備・用具の点検等を行い、事故防止を徹底すること。
- ② 認定地域クラブ活動の運営団体及び認定地域クラブ活動は、事故等が発

生した場合の対応や責任関係等を明確化していること。

- ③ 認定地域クラブ活動の運営団体及び認定地域クラブ活動は、保護者や関係機関への緊急時の連絡体制の整備等を行い、事故発生時の対応を適切に行うこと。

(8) 保険加入

認定地域クラブ活動の運営団体及び認定地域クラブ活動は、参加者や指導者等に対して、自身の怪我や物品の破損等を補償する傷害保険や個人賠償責任保険に加入すること。

3. 学校との連携等

(1) 学校との連携

- ① 認定地域クラブ活動と学校部活動との間で、活動方針や活動状況、スケジュール等の共通理解を図るとともに、関係者が日々の中学生の活動状況に関する情報共有等を綿密に行い、学校を含めた地域全体で中学生の望ましい成長を保障すること。ただし、市外の学校との連携については、可能な範囲で行うこととする。
- ② 認定地域クラブ活動の運営団体及び認定地域クラブ活動と学校との間で、中学校の学校行事（定期テスト含む）や大会（練習試合含む）等の情報共有を行い、必要に応じて相談を行いながら中学生の実情にあわせた活動を実施すること。
- ③ 学校施設を活用する場合は、学校と連携を図りながら学校備品の使用及びクラブ備品の保管等のルールを定め、紛失や破損した場合のルールを各認定地域クラブ活動の運営団体及び認定地域クラブ活動と学校とで定めること（認定地域クラブ活動または個人の保険で対応等）。
- ④ 認定地域クラブ活動は、可能な範囲で市内高校と連携を図った活動を行うこと。

(2) 他認定地域クラブ活動等との連携

- ① 認定地域クラブ活動間の連絡調整する会議には必ず参加すること。
- ② 市内で活動している同種目の他認定地域クラブ活動がある場合は、中学生等が混乱しないように、認定地域クラブ活動間及び中学校との協力体制（エリア・活動内容・活動場所等）を整えること。
- ③ 認定地域クラブ活動以外の市内で活動しているスポーツ・文化活動を実施している団体等と連携・協力し、中学生等が多種多様なスポーツ・文化活動が実施できる環境づくりに努めること。

4. 事故の防止及び健康管理

- ① 認定地域クラブ活動は、使用する用具等について定期的な安全点検を行い、事故の未然防止に努めること。
- ② 認定地域クラブ活動は、使用する中学校施設（備品も含む）に不備があった場合は、速やかに中学校または、市教育委員会へ報告しなければならない。
- ③ 認定地域クラブ活動は、活動時期、活動時間及び活動場所の気温や湿度など環境条件を把握し、活動時間の短縮や活動の中止などについて適切に判断し、熱中症等事故防止に努めること。
- ④ 認定地域クラブ活動は、活動開始時に参加者の健康状態・疾病・傷病の状況などの健康観察を行い、健康状況を把握して適切に対応するとともに、参加者が主体的に体調管理に努めることができるよう指導すること。
- ⑤ 認定地域クラブ活動は、使用する用具を適切に保管または、管理するとともに、参加者に用具の正しい利用及び管理について指導すること。
- ⑥ 認定地域クラブ活動は、使用する会場内または、周辺施設のどこに AED があるか把握しておくとともに、定期的に救急救命講習を受講することが望ましい。
- ⑦ 認定地域クラブ活動は、事故が発生した場合、速やかに応急手当、対応を行うこと。また、事故の状況に応じて救急搬送を要請するなど必要な措置を講ずること。

- ⑧ 認定地域クラブ活動は、気象警報や感染症等により学校が臨時休校（休業）した場合は、当該学校（学級）の中学生を参加させないこと。

5. 個人情報の取扱い

認定地域クラブ活動は、個人情報の保護に関する法律を遵守するほか、活動によって知り得た情報を漏洩せず適正に取り扱うこと。

6. 大会等への参加

(1) 中学校体育連盟主催大会や吹奏楽連盟主催コンクールへの参加

- ① 中学校体育連盟主催大会に参加を希望する認定地域クラブ活動は、岡山県中学校体育連盟が定めた参加資格要件を満たすことを確認し、登録手続きを行わなければならない。
- ② 登録した認定地域クラブ活動が参加申込みする場合、学校と事前調整を必ず行うこと（該当生徒がいる場合）。
- ③ 吹奏楽連盟主催のコンクールへの参加を希望する認定地域クラブ活動については、岡山県吹奏楽連盟へ問い合わせたうえで、必要な手続きを行うとともに、学校との事前調整を必ず行うこと（該当生徒がいる場合）。

(2) 上記以外の大会等への参加

上記以外の大会等に参加を希望する認定地域クラブ活動は、それぞれの主催団体が定めた参加資格を満たすことを確認し、参加手続き等を行わなければならない。また、学校と事前調整を必ず行うこと（該当生徒がいる場合）。なお、大会参加重視にならないように無理のない範囲で参加すること。

7. 真庭市・市教育委員会のかかわり

真庭市及び市教育委員会は、認定地域クラブ活動へ下記の内容について行う。

- ① 認定地域クラブ活動の運営団体・実施主体の把握を行う。その際、認定地

域クラブ活動の申請内容に虚偽があった場合は、改善を求め、活動の停止・施設の使用停止など適切な対応を行う。

- ② 認定地域クラブ活動の運営団体及び認定地域クラブ活動へ必要に応じてヒアリングを行うとともに、本方針の内容を遵守しているか、適宜、確認する。
- ③ スポーツ・文化活動を支える人材の確保のため、「真庭市スポーツ・文化人材バンク」を設けるとともに、指導や活動のサポートのための知識の共有化及び質の向上のための研修会等を開催する。
- ④ 認定地域クラブ活動に関する相談を受けた場合、適宜、指導助言を行う。
- ⑤ 部活動の地域展開に関する依頼に対し助言するために、真庭市地域クラブ活動総括コーディネーターを設置する。
- ⑥ 中学生等が志向に応じて自分にふさわしい活動を選べるように、地域で実施されているスポーツ・文化芸術活動の内容等を市ホームページに掲載するとともに、小中学校と連携して子どもたちへ案内する。
- ⑦ 可能な範囲で、認定地域クラブ活動に対して、活動費等の支援や、学校施設、社会教育施設や文化施設等について低廉な利用料を認めるなど、負担軽減や利用しやすい環境づくりなどの支援を行う。
- ⑧ 部活動の地域展開を円滑に進めるために、認定地域クラブ活動同士の連絡体制を整える。
- ⑨ 国が示す手引き等も参考としつつ、認定地域クラブ活動での指導を希望する教職員等が、円滑に兼職兼業の許可を得られるよう、規程や運用の改善を行う。
- ⑩ 市教育委員会が教職員等の兼職兼業の許可をする際には、教職員等の本人の意思を尊重し、指導を望んでいないにもかかわらず参加を強いられることがないように十分に確認するとともに、勤務校等における業務への影響の有無、教職員等の健康への配慮など、学校運営に支障がないことの校長の事前確認等も含め、検討して許可する。

8. その他

今後、国や県から、認定地域クラブ活動にかかわるガイドライン等が新たに示されたり、状況が変わったりした場合は、本方針を必要に応じて、適宜、改定するものとする。

○参考

- ・部活動改革及び地域クラブ活動の推進等に関する総合的なガイドライン
(令和7年12月 文部科学省)
- ・学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン (令和4年12月 スポーツ庁、文化庁)
- ・岡山県部活動改革及び地域クラブ活動の推進等に関する総合的なガイドライン (令和8年3月)
- ・新たな地域クラブ活動の構築に向けたガイドライン
(令和6年3月 岡山県)
- ・「スポーツ団体ガバナンスコード〈一般スポーツ団体向け〉」
(令和元年8月27日 スポーツ庁)
- ・「学校の働き方改革を踏まえた部活動改革について」を受けた公立学校の教師等の兼職兼業の取扱い等について (通知)
(令和3年2月17日付け2初初企第39号)
- ・公立学校の教師等が地域クラブ活動に従事する場合の兼職兼業について (手引き)
- ・岡山県中学校体育連盟主催大会への地域クラブ活動の参加資格の特例について
(令和5年11月21日)
- ・スポーツ活動における熱中症事故の防止について (依頼)
(令和5年5月12日付け5ス健ス第10号)
- ・スポーツ活動中の熱中症予防ガイドブック (令和元年5月改訂 公益財団法人日本スポーツ協会)